

【 社 会 】 「個々の問題の出題の意図及びその正答率」

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点		県の正答率	学校の正答率
	大問	小問	通番		思考・判断	観察・資料活用・表現		
住みよいくらしをつくる	1	1	1	疑問を調べるためには、「どこで」「誰に」「何を」「どのように」聞いた り、見たりすればよいのかなど、調べる計画を立てることができる。		○	46.8	
		2	2	燃やすごみの処理の方法を理解している。		○	94.1	
		3	3	資源ごみの処理の方法としてリサイクルがあることを理解している。		○	84.9	
		4	4	人口の変化とごみの量の変化を比べて、これまで学習してきたことや、経験し てきたこととは違う事実疑問をもち、学習課題を考えることができる。	○		84.3	
	2	1	5	人口の変化と水の使用量の二つのグラフを比べて、変わり方の違いを読み取る ことができる。		○	56.1	
		2	6	川の取り入れ口から浄水場を通り、安全な水が家庭に運ばれることを理解して いる。		○	83.5	
きょう土につたわるねがい	3	1	7	昔の道具の特徴を観察し、今からどれぐらい前のものなのかをとらえ、年表に 整理することができる。		○	80.4	
		2	8	洗濯の道具が発達して便利になったことで、人々の生活がどのように変わって きたのかについて、「時間」というキーワードをもとにして考えることができ る。	○		39.6	
	4	1	9	坂本養川の年表をもとに、殿様に願い出してから最初の用水ができるまでの年月 を正しく読み取り、数字で表すことができる。		○	37.7	
		2	10	米のとれる量が増えた理由について、用水が作られたことと新田が増えたこと を関連付けて考えることができる。	○		20.7	
岐阜県のくらし	5	1	11	インターネットを正しく使って調べ学習を進めることができる。		○	36.5	
		2	12	わたしたちの県の位置を日本全体や、周りの県の位置との関係から、四方位を 使って言い表すことができる。		○	51.5	
		3	13	伝統的な工業では、古くから伝わっている技術や技法等を使って行われている ことを理解している。		○	19.6	
	4	14	14	美濃焼がさかんになったわけを、原（材）料である粘土の産地と関連付けて考 えることができる。	○		70.4	
		15	15	工業が発達している地域を結ぶように高速道路が通っているわけを、原（材） 料や製品を運ぶということと関連付けて考えることができる。	○		27.1	
	5	16	16	岐阜県の県庁所在地の市町村名と場所を理解している。		○	71.8	
		17	17	長良川の位置と名称を理解している。		○	45.0	
		18	18	土地高低図から、岐阜県的美濃地方は飛騨地方と比べて土地の低いところが広 がっていることを読み取ることができる。		○	60.1	
		19	19	地図に表されている土地の様子や縮尺をもとに、土地高低図における位置を考 え、判断することができる。	○		28.5	
		20	20	岐阜県の南西部の土地や土地利用の様子を理解している。		○	57.3	